

TRANSFUSION Chain

 vol. **05**
 2026.02

 2026
第5号
Copic

日本赤十字社が行っている 造血幹細胞事業について -Part 2-

 血液事業本部 技術部
 造血幹細胞事業管理課

日本赤十字社では、血液事業の関連事業として「造血幹細胞事業」を行っています。
 前号では国内における造血幹細胞移植の現状についてご紹介しました。
 今回は日本赤十字社と「造血幹細胞移植」の関わりについてご紹介します。

日本赤十字社と非血縁者間造血幹細胞移植の関わり

日本赤十字社は、1991年に当時の厚生大臣からの依頼を受け、全国の血液センターに骨髓データセンターを設置し、骨髓バンクドナーの登録・検査・データ管理などの協力を翌年に開始しました。また、1995年以降、各地の血液センターが大学病院などと連携して臍帯血バンクの設置を進めました。1999年には臍帯血移植を公平かつ安全に実施するため、「日本さい帯血バンクネットワーク」が発足し、日本赤十字社は国からの要請により事務局として協力してきました。

当初は研究的医療とされていた造血幹細胞移植ですが、治療成績の向上や高齢化の進展により、ニーズが増加していく一方で、骨髓・臍帯血バンク事業に関する法律や規制が存在せず、また、財政的な不安定さが課題となっていました。

この課題に対応するため、2012年に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が成立し、2014年に施行されました。この法律によって、国と造血幹細胞提供関係事業者の責務と役割が明確化され、日本赤十字社は「造血幹細胞提供支援機関」に指定されました。さらに「臍帯血供給事業者」として国の許可を受け、2014年4月から新たな事業を開始しました。

日本赤十字社の役割

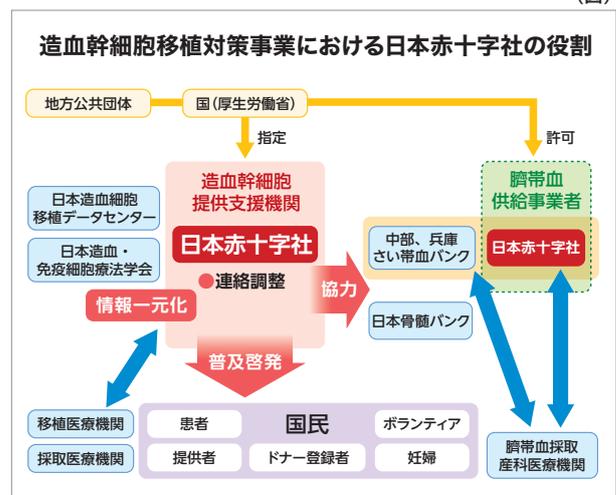
法律に基づき、日本赤十字社が「造血幹細胞提供支援機関」として担っている役割は以下の4点です。骨髓バンクや臍帯血バンクへの支援、ドナー・患者の適合検索、造血幹細胞に関する広報・啓発活動などを通じて、移植を必要とするすべての患者に対し、安定かつ安全な治療が提供されるよう取り組んでいます(図)。

1. 造血幹細胞提供関係事業者への協力
2. 移植に関する情報の一元管理
3. 国、関連事業者、学会、ボランティア団体など関係者との連絡調整
4. 国民への普及啓発活動

加えて、日本赤十字社は「臍帯血供給事業者」として国内4施設*の臍帯血バンクを運営しており、中部・兵庫さい帯血バンクとともに、臍帯血移植が安全に安定して実施されるよう取り組んでいます。

*日本赤十字社は、北海道・関東甲信越・近畿・九州の4ブロック血液センターが臍帯血バンクを運営しています。

(図)



造血幹細胞移植情報サービス 骨髓バンク・さい帯血バンク ポータルサイト

骨髓バンク・臍帯血バンクの統計情報や、日本赤十字社が発行する広報誌や動画などを掲載しています。

詳細はこちらから

BMDC 検索



医療現場での輸血に関する実際について、前号から医療機関の方に執筆をお願いしています。連載2回目となる今回は、若手臨床検査技師の方による取り組みと、今後の展望をご紹介します。

STORIES!

若手技師としての輸血業務への取り組み、今後の活動 —「輸血検査の魅力」輸血知識の向上に向けて—

新百合ヶ丘総合病院
臨床検査科

佐藤 志帆

(図)

新百合ヶ丘総合病院は神奈川県川崎市北部にある総合病院で、二次救急医療機関として急性期医療を担っています。輸血検査室は臨床検査技師10名が24時間体制で業務を行っています(図)。

輸血検査の魅力と若手技師としての取り組み

私は希望していた輸血検査を担当し、4年目を迎えました。初心は今も変わらず、輸血医療の奥深さと責任の大きさを感じながら日々の業務に取り組んでいます(写真)。

輸血検査の最大の魅力は「責任感」です。誤った結果を臨床に報告すると患者の命に直結します。重要な分野ではありますが、正確な結果が治療に役立つと「頑張ってたかった」と思えます。また、単に結果を報告するだけでなく、その先の診療を見据えられるよう付加価値を添えていくことが大切だと考えています。

入職3年目の頃、不規則抗体検査で同定が困難な症例を医師へ報告した際、専門用語を多用してしまい、今後の輸血による患者のリスクについてうまく伝えられませんでした。自分の知識に自信がなかったため、「視野をもっと広げたい」と思うようになりました。

その後、先輩技師から「外を見たほうがいいよ」というアドバイスを受け、外部研修会に参加し、他施設の検査技師や医師、看護師と交流するようになりました。その経験により知識だけでなく様々な視点で物事を考えられるようになり、新しいことに挑戦したいと強く思いました。

今後の活動

日本赤十字社から得られる最新情報は、輸血情報を臨床側へ報告する際に付加価値をつけるための一助となっています。日本赤十字社も医療機関も、輸血を必要とする患者に安全を届けるという共通目的のため、今後も密接に連携を取っていき、チーム医療の一員として活動していくことが大切だと感じています。

今後は研修会への参加だけでなく、積極的に学会発表や論文投稿を行い、輸血分野の発展に微力ながら貢献できればと考えています。これからも学び続け、努力を重ねて臨床を支えられる技師になれるよう頑張ります。

新百合ヶ丘総合病院 概要

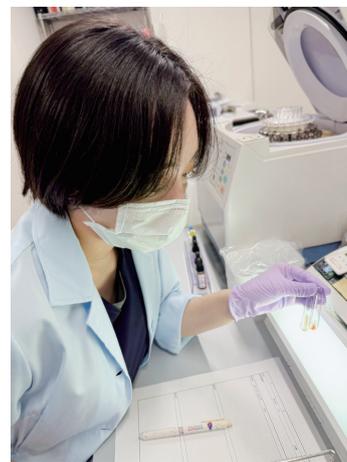
開設：2012年8月
病床数：563床(43診療科)
救急体制：二次救急
取得加算：輸血管理料II、適正使用加算II

2024年血液製剤使用実績

赤血球製剤：6,682単位
新鮮凍結血漿：1,380単位
(クリオプレシピテート 172単位)
血小板製剤：6,060単位
アルブミン製剤：5,283単位



【所在地】
〒215-0026
神奈川県川崎市麻生区
古沢都古255



(写真：本人)

Transfusion Chain (Vol.5)

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号

※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター-医薬情報担当者へお願いします。



・日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

検索



スマートフォン・タブレットにも
対応しています。

